

ISSJ ニュース

日本国際社会事業団 (ISSJ) は、誰もが生まれ育った環境や国籍などによって不利な状況に置かれず、自分らしく生きられる社会を目指します。

子どもが家庭で育まれるための 養子縁組支援



家庭を必要とする子どもへの支援
養親希望者の相談・支援
子どもを育てられない実親への支援

外国とつながりのある家庭の支援



・子どもの国籍取得支援
・面会交流支援
・日本で暮らす難民の支援

社会福祉法人日本国際社会事業団 (ISSJ) 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 3F Tel: 03-5840-5711
ISSJ への寄付は税法上の優遇措置 (所得税、法人税、相続税) が適用されます 郵便振替口座 001190-7-6491

ISSJ ニュース (インターカントリー No.54) 目次

- 越境する福祉 (p.1)
- What's New?
養子縁組をした家族から / 難民支援 (p.2-3)

- REPORT
家庭養護促進 勉強会開催 / 外国人住民のための防災訓練 (p.4)
- 事業完了報告、スタッフ・役員紹介、お知らせ (p.5-6)



越境する福祉

—ISSJのミッションと実践—

常務理事 石川美絵子



日本国際社会事業団 (International Social Service Japan-ISSJ) の活動は、戦災孤児や日本人と駐留軍兵士との間に生まれ父母と暮らすことができない子どもの支援から始まりました。多くの子ども

たちは養子として、新たな家族の暮らす米国やカナダへ渡りました。ISSJのミッションは、その始まりから国際福祉の実践だったといえます。その後、時代が変遷する中で、ポートピープル (インドシナ難民) の到来、ニューカマーと呼ばれる定住外国人の増加、最近では国際結婚の破たんや面会交流増加などの影響を受け、日本の法律や制度だけでは支援が難しい多国間・多文化間に関わる人々のニーズに、柔軟に対応しています。ISSJの "International Social Service" という名称は国際福祉を意味し、「子どもの最善の利益」を図るために国境を超えて福祉を実践しています。

国際福祉という言葉には定義・定説がありません。福祉分野

における国際協力や国際交流を意味する場合もあります。しかし、本来「国際」とは、「国と国の間」を指すことから、「いくつかの国に関わる福祉」が『国際福祉』であるとISSJでは考えています。

日本人だけの問題であれば国や自治体の制度で支援できますが、外国が関係する場合は、その方の出身国の法制度や社会状況も考慮に入れる必要があります。そこで私たちは、相談者がコミュニケーション可能な言語で聞き取りを行い、関係国の法律や福祉制度などを勘案しながら支援を進めます。

支援の過程では、その人の背景にある文化・宗教も考慮する必要があります。価値や規範の違いを理解しておかないと、無意識のうちに判断にバイアスがかかることがあり、適切な支援を提供できないからです。最近では、福祉の分野でこのような視点の重要性が認識されるようになり、「多文化ソーシャルワーク」として広まりつつあります。

ISSJが行う福祉の実践は、多くが国際福祉であり、多文化ソーシャルワークでもあります。子どもの福祉を中心に据えて、日々「前例のない課題」に取り組んでいます。

養子縁組をした 家族から

年末年始にかけて、ISSJが養子縁組を支援した家族からグリーティングカードが届きました。カードだけではなく気軽にメールやSNSで子どもの成長や家族の変化を知らせてくれる養親さんもいます。子どもが新しい家族のなかで、家族と同じ笑顔で笑っている姿が垣間見える、ソーシャルワーカーにとっては楽しい季節です。



「今日は1年生の入学式です。緊張していましたが、彼はがんばりました。すぐに友達をつくりました。」

「初めての遠足に行きました。キャラ弁に挑戦しました！」



《家族のメッセージから》

「私たちは家族に成長しました。新婚のときに想像していた家族の形とは違いましたが、どのような意味においても確かに家族です。」

「良いとき、悪いときを含めて、子どもたちを愛し成長を見守ることができるのが、私たちにとって祝福です。」

「将来、子どもが突の親のことを知りたくなったときには、私たち家族の手助けをしてください。」

「養子縁組は、とてもポジティブな変化と、何かのためにこの世界で生きていくという気持ち、この世に存在する意味を与えてくれました。」

「私は今、若く独立した青年が将来の大学やキャリアの目標について話していることをとても嬉しく思い、また達成感も感じています。彼は成長しましたし、これからも成長します。」

「人生の旅を通して、彼を導き、愛することで彼の人生の一部になれたことを、とても恵まれていると感じています。」

難民からの うれしい報告

ISSJで長らく相談支援をしてきたクライアントのSさんに、難民認定がおりました！
Sさんは報告とお礼を兼ねて、日本で父親のよう
に支援してきた方と一緒にISSJを訪問しました。



明るい笑顔のSさん(右)と支援者さん(左)と

難民認定審査期間は、彼女にとって長く辛い月日でした。入国管理局に出頭する数日前から、Sさんも支援者さんも心配でソワソワしていました。難民認定を受けてからも、子育てをし日本語を学ぶ彼女の生活はこれまでと大きくは変わらないかもしれませんが、しかし、ようやく将来を見通し、家族と一緒に安心して暮らせるという彼女の明るい表情に私たちもほっとし、報告にきてくれたことを嬉しく思います。日本でより自分らしく暮らしたいけるよう、社会統合に向け今後も引き続き支援してまいります。(YI)

ワークショップ報告 「ムスリムの暮らし ってどんなの？」

ここ数年、日本でも綺麗な色のヒジャブ(ムスリムの女性が髪の毛を隠すために身につけているスカーフ)をまとった女性の姿を目にすることが多くなりました。 「ムスリム」とはイスラムの教えを信じ

る人のことを意味します。ISSJが支援している難民や難民申請者の中にも、多くのムスリムがいます。彼ら彼女らと関わる中で、メディア等で語られるイスラムの姿とのギャップに度々出会います。

そこでISSJは今年3月、日本でのムスリムの生活について当事者から発信するワークショップ「ムスリムの暮らしって、どんなの？」を、ムスリム系住民が多く暮らす群馬県館林市で開催しました。当日は女性6名にご協力いただき、おいしい手料理も振舞われました。

「お祈りは1日5回だけれど、出来ない時は神様に謝って、後でまとめてすれば大丈夫！お祈りの貯金って言えるのかな。」

「ラマダン(日中断食をする1か月間)は、断食をするだけではなく、悪口を言ったり聞いたりするのも良くありません。心と身体を綺麗に保つ大切な時間です。」

「ヒジャブを被っているのは、旦那さん以外の男性に、女性の魅力的な部分を見せないため。家の中では被っていませんよ！これも、

女性を守るためなんです。」
次々に興味深い発言が飛び出し、時に笑いに包まれました。

その後、6名の女性を作ってきてくれた料理の説明を聞きながら試食大会となりました。お料理の話をする女性たちは一層いきいきとした表情で、「次のお祭りの時には、家に食べに来てね！色々なご馳走をたくさん作って待っているから！」とも話してくれました。

参加者の質問に一つひとつ丁寧に、そしてユモラスに答える彼女たちの姿を見てみると、両者が互いに歩み寄り「知ろうとする」ことが社会統合の第一歩なのだと痛感させられました。「もっとこんな機会があれば良いのにな」と思いました」とムスリム女性からも参加者からも感想が寄せられたことは、私たちにとっても大きな励みとなりました。(KK)



女性たちが分担し、前菜からデザートまで用意してくれました。お鍋のなかはラマダン明けに食べるスパイシーな豆料理。たくさんの料理も10名以上の参加者の皆さんで完食しました！

REPORT

福祉医療機構 (WAM) 助成 家庭養護促進にむけた 勉強会開催

をいただきました。

勉強会には各地の児童相談所、都道府県の職員、児童養護施設・乳児院の里親専門支援相談員、民間養子縁組団体の社会福祉士など約60名が集まりました。勉強会の前半では、ゲストスピーカーとしてISSJを通し養子縁組をした養親と養子をお招きし、養子縁組で親子になるということ、養子縁組がもたらした喜びと挑戦をキーワードにご家族の経験をお話いただきました。後半は参加者間でのグループワークを行い、養親候補者の家庭調査や支援者間での協力のあり方について、具体的な事例をもとに意見交換を行いました。参加者からは「縁組後の養親さんのお話を聞く機会はあまりなかったのが刺激的だった」「グループワークのテーマは日々悩んでいたことなので、他の方の意見もきけてとても参考になった」「民間も行政も入り様々な取り組みを聞くことができた」などの感想が寄せられました。この勉強会は今年度も開催予定です。(YE)

福祉医療機構 (WAM)

から助成をいただき2017年11月に東京、2018年1月に大阪で「家庭養護促進にむけた勉強会」養子縁組のための家庭調査のあり方を考える」を開催しました。アドバイザーとして日本社会事業大学の宮島清先生と明星大学の奥田晃久先生をお招きし、ご助言

ISSJ・群馬県・館林市共催 外国人住民のための 防災訓練

「外国人住民のための防災訓練」を群馬県ならびに館林市との共催で実施しました。

難民に限らず、大人になってから来日した外国籍住民の多くは、日本で生じうる災害や防災について学ぶ機会を持ちません。その一方で、災害が発生すると、言葉の問題や文化の違いから十分な支援を受けることが出来ず、より脆弱な立場に置かれる可能性が高くなります。地域社会で暮らしながらも、地域との接触が希薄になりがちな難民コミュニティにとって、地域住民と共に災害について学び、備えることは大変貴重な経験です。

当日は館林市に住むムスリム系住民を中心に100名以上が参加し、災害発生時にとるべき行動や日頃の防災対策について学びました。模擬避難所訓練では、同日に開催された「災害時通訳ボランティア養成講座」の参加者(日本人、日本語を解する外国籍住民)とも交流することが出来ました。ムスリム系住民が多い地域性を考慮し、会場にはお祈りスペースが設置され、また昼食としてハラール対応の非常食を用意するなど、特定の人々が支援の輪から外れることのないよう工夫を凝らしました。参加

ISSJは日本に暮らす難民の方々のコミュニティを定期的に訪問し、生活相談に応じています。とりわけ、群馬県館林市周辺に暮らす難民コミュニティの女性たちに対しては、個別の相談に応じるだけでなく日本語教室を軸とした社会統合支援を提供しています。その一環として、2018年2月に、「外国人住民のための防災訓

者からは「初めて知ったことが沢山あり、災害に備えておく大切さがわかった」「すぐに水とライトを買います」「わかりやすく話してくれたので理解できました」といった声が寄せられました。(KK)

*本取組は、文化庁委託による「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」の一環として実施しました。



ハラールのピリヤニとお水。お手拭はアルコールを使っていないもの。



座学だけではなく、実際に避難所を設営して訓練をしました。

イベント報告 秋吉敏子さんを迎えてのクリスマスチャリティコンサート 2017年12月25日



出演者 (敬称略)

秋吉敏子 黒田亜樹
 ルー・タバキン イ・ヒヨク
 マッズ・トーリング 牛丸麻衣子
 廣田丈白

より) 私たちの方こそ、嬉しい限りです。本当に、ありがとうございました!

2017年12月25日、紀尾井ホールにジャズアーティストを迎えてチャリティコンサートを開催しました。ジャズ界の大御所秋吉敏子さんと、パートナーでサクソフォ奏者のルー・タバキン氏を中心に、日本・韓国・唐人マークからISSJの活動に賛同してくれたミュージシャンたちが集まり、素晴らしい演奏をしてくださいました。中でも世界のジャズシーンをリードしてきた秋吉さんの演奏は圧巻。ルー・タバキン氏とのデュオを見られる機会も貴重です。ソロあり即興あり、ノリの良い曲から心に染みる音色まで、クリスマスの夜、観客は多様なアーティストと共に、心躍る楽しいひと時を過ごしました。

その後のインタビュで、秋吉さんは次のように答えてくれました。「国境を超えた、子どもたちの支援団体からお声をかけていただくだけでも嬉しいことです。我々にできることってそれくらいですからね。お役に立てて良かったなと思っています。」(「サンデー毎日」2018年2月18日発行)

2017年度事業完了報告

次の事業は目的どおりに完了したことをご報告いたします

日本自転車振興会(JKA)

「子どもが幸せに暮らせる社会を創る活動」

344万544円

公益財団法人日本財団

「国境を越えて移動する子ども、家族のための相談援助」

891万円

「社会福祉を基盤とする養子縁組」

495万円

東京都共同募金会

「日本在住の外国籍・無国籍児童、難民、難民申請者への緊急援助事業」

19万円

独立行政法人医療福祉機構(WAM)

「家庭養護促進のための基盤づくり事業」

272万円

文化庁

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

240万円

以上 完了日 2018年3月31日

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)

「Enhancing Asylum Space in Japan/ Strengthening and Enhancing Community Mobilization」

169万9千933円

完了日 2017年12月31日

スタッフ紹介

事務局 藤崎 節男



1979年に日本興業銀行に入行し、生まれ育った仙台支店勤務を皮切りに、審査部(企業の存立基盤評価)、業務部(銀行本体の資金繰り業務)、東京・大阪地区での支店勤務等を経て、みずほ統合後はみずほグループで働いていました。

ISSJでは主に銀行勤務時代に培った知識を活かし、2017年4月から週2回、経理・財務業務を担当しています。高校野球観戦と将棋が趣味で、特に高校野球については、銀行業務より知識が豊富といわれていました。

微力ながら、ISSJのさらなる発展に向け、尽力していきたいと思っています。

ISSJ役員紹介

理事 篠原 敏夫



「世界中の助けが必要な人々に支援の手を差し伸べる。」ISSJの活動に共感し、昨年7月から理事をさせていただいております。今籍をおいている民間企業の感覚からは、ISSJの全ての仕事は、国や機関や企業からの補助金・助成金と、ご支援下さる皆さまからのご寄付によつてのみ成り立っていることに驚きます。しかしながらそれは取りも直さず、より多くの人たちに手を差し伸べるためには、より多くのご支援をいただくことが必要であることを意味します。そのためには、私たちの活動をもっと世界に発信し、ISSJをもっと多くの皆さまに知っていただくなくてはなりません。世界中で必要とされる支援も、時代とともに変化します。私たちも現在の活動をベースに、世の中のニーズに柔軟に 대응していかなければいけないと思っています。なお一層のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

イベントのお知らせ

2018年6月30日(土)

子どもを支えるチャリティ映画会&バザー



● チャリティバザー 9:40~17:00 (ロビー)

● ミニトーク「子どもの幸せ」とは

16:00~16:30 (映画会ホールにて)

ゲストスピーカー

認定NPO法人 Living in Peace

代表理事 中里晋三さん

「すべての子どもたちにチャンス」

Living in Peaceは、「機会の平等を通じた貧困削減」を目指す認定NPO法人です。専従職員を持たず、メンバー全員が本業の仕事を持ちながら、平日夜や週末を使って活動しています。



子どもにとって、家族にとって、大切なこととは何かを考えさせてくれる名作です！

日本教育会館 3F 一ツ橋ホール
(神保町駅A1出口から徒歩3分)

開場 9:40

上映開始時間(上映時間 101分)

① 10:30 ② 14:00 ③ 17:00



STORY

数学の才能を与えられた7歳のメアリー、彼女を引き取って育てている叔父のフランク。穏やかな生活に、メアリーの教育をめぐる縁を切ったはずのフランクの母親が現れ…。何が「この子のため」かをめぐる葛藤を通して、家族の姿を描くヒューマンドラマ。

「こどもプロジェクト」を通じて子どもの課題に取り組む認定NPO法人Living in Peaceの代表理事 中里晋三さんをゲストに迎え、「子どもの幸せ」について一緒に考えます。

《中里さんよりメッセージ》

「2012年より児童養護施設など、社会的養護のもとで生活する子どもたちの支援に関わってきました。Living in Peaceは『働きながら、社会を変える』をモットーに、すべてのメンバーが本業を別に持ち、本業以外の時間で社会課題解決のための活動を続けています。当日は、短い時間ですが、皆さんとともに『子どもの自分』に耳を傾けながら、『子どもの幸せ』を考える機会にできればと願っております。」

【経歴】

東京大学理学部物理学科卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程(哲学)在籍中。社会福祉法人筑波会評議員。2018年4月よりNPO法人Living in Peace代表理事。

平成30年度WAM助成事業 勉強会のご案内 —「子どもの福祉とソーシャルワーク実践」—

第1回
外国籍児童支援と
ソーシャルワーク

2018年8月1日(水) 18時~20時
文京シビックセンター会議室2
(東京都文京区春日1-16-21)

外国籍の子どもたちを支援する現場で直面する課題(在留資格、無国籍、学校や地域への適応・統合、家族の問題)へのISSJの日頃の取り組みを紹介し、参加者の皆様と、必要な視点、技術、方法について一緒に考えます。

対象者 社会福祉士、ソーシャルワーカー、臨床心理士、医療従事者、児童福祉に関する行政機関や民間団体の職員の方、社会福祉に関心のある学生

定員 各20名程度(先着順)
※1回のみ参加も可能です。

費用 1回につき2,000円(学生1,000円)
※資料代含む

【お申込方法】

メールもしくは電話にて①お名前、②ご所属、③参加希望の回、④メールアドレスを明記の上日本国際社会事業団・WAM勉強会担当宛にご連絡ください。

第2回
家庭調査とソーシャルワーク

2018年9月8日(土) 10時~12時
(会場は決まり次第お知らせいたします)



ソーシャルワークにおいて、当事者やその家族の「アセスメント」は重要です。ISSJでは養子縁組や家族の再統合を目的に家庭調査を実施します。また、国内外の行政機関、裁判所、ISS支部等の依頼を受けて家庭調査と報告書の作成を行うこともあります。子どもの福祉という視点から、家庭調査で求められるアセスメントの基準について紹介します。

Q ニュースレター編集部

ISSJ事務所には、6月30日のチャリティバザーのためにご寄付の品物が次々と届いています。私たちの活動がたくさんの方々の温かい思いに支えられているのを日々実感しています。日頃のご支援に、あらためて感謝申し上げます。



ISSJの活動は、日本財団、UNHCR、医療福祉機構(WAM)、文化庁からの助成金、そしてISSJの活動を理解し支援して下さるひとり一人のお力で支えられています。

インターカントリー第54号 2018年6月15日発行

発行：社会福祉法人 日本国際社会事業団
International Social Service Japan (ISSJ)

発行責任者： 石川美絵子

発行所：〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水K&Kビル 3F

TEL: 03-5840-5711 (代表)
E-mail: issj@issj.org

FAX: 03-3868-0415
URL: www.issj.org

